

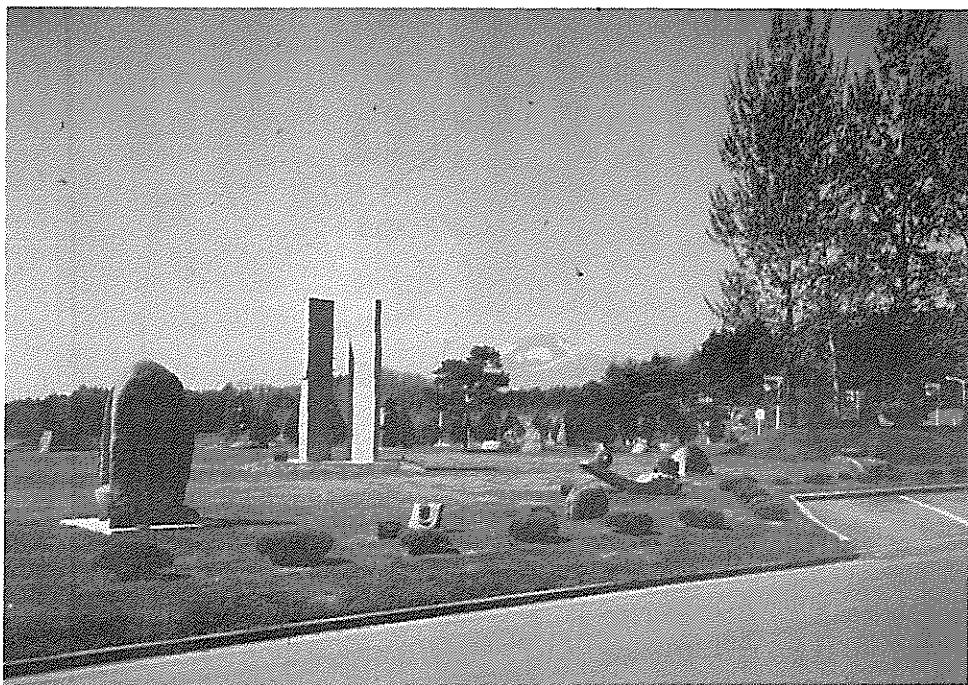
岩手郡医報

昭和63年8月 No.23

編集／発行

岩手郡医師会

題字 雪石町高橋孝先生



岩手町石彫公園

この写真は初夏のある日、岩手町庁舎から展望した石彫公園の眺めです。

国際色豊かな多くの作家の作品が展示され、ここを訪れる人々の目を楽しませてくれます。

岩手町は昔から独特の硬さと色合いを有した黒御影石の産地です。

昭和48年、アメリカを中心に広く国際的に彫刻活動をしていた当時コロンビア大学助教授であった新妻 実氏と当町出身の画家でエコール・ド・エヌの代表者であった齊藤忠誠氏が、この黒御影石を素材に、国内および海外の彫刻家を招き、第一回岩手町石彫シンポジュームが開かれた。以来14年間毎年開催され、日本、アメリカ、カナダ、イタリア、フランス、ベルギー、アイルランド、スペイン、ポルトガル、韓国、台湾等10数ヶ国の作家の作品が展示されています。

(H. S記)

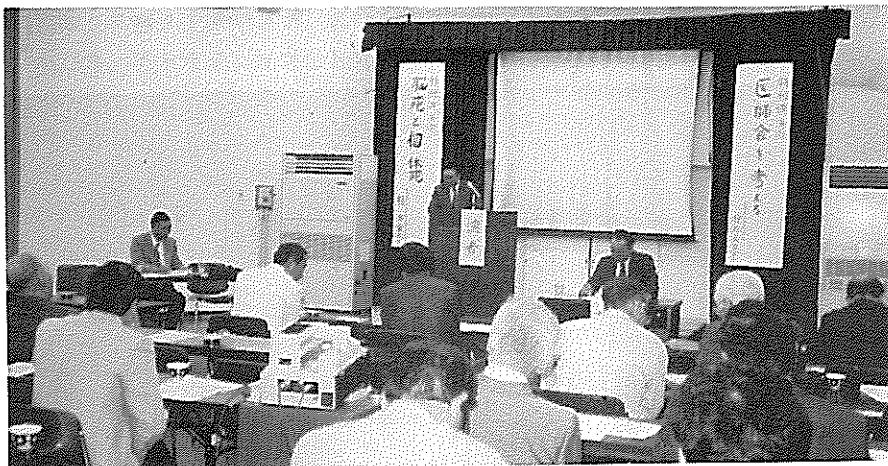
目次

岩手町石彫公園	1	三都市医師会代表者懇談会記録	8
岩手郡医師会総会	2～3	昭和63年度学校医幹事会報告	9
岩手郡医師会役員会	4～5	第2回岩手県医師会理事会報告	9
岩手郡医師会理事会	5～6	出会い・産業保健研修会に参加して	10
乳児、妊産婦重度障害者救済事業一部改正	6～7	伏兵及川大活躍三回戦進出	11～14
乳児、妊産婦に係る周産期対策	7	会員入退会及び編集後記	14

岩手郡医師会総会

場所：八幡平ハイツ

日時：昭和63年6月11日(土)午後4時



岩手郡医師会総会記録

出席者総数 29名（資格確認）

委任状 34名

岩手郡医師会会員総数 67名

進行：及川理事

1) 開会の辞（上田靖彦副会長）

2) 会長挨拶（高橋牧之介会長）

本日は週末にもかかわらず多数の会員の参加をいただき、総会を開催することができ感謝申し上げます。さて皆さんから絶大な支持をうけまして、初めての総会を開催するにあたり、医療界の現状と問題点を簡単に申し上げたい。特に医政面から現状を観ると、いままさに医療の転換期にあることは事実であり、医療保険制度の見直しや医療費抑制策の只中で一般国民の医療への対応が次第に大病院志向に成りつつあり、さらに人生80年時代を目の前にしてその責任の重大さに驚くばかりであります。これまでの岩手郡医師会の良き伝統を継承し、過酷な試練を乗り越えるため全力投球し、会長としての職務を果たしたいと考えております。

さてこれからのが医師会の基本方針はまず医の倫理の高揚、生涯教育の充実があげられ、これは全員の協力が必要とおもわれます。さらに学

校保健の充実、産業医活動の活発化、災害医療体制の確立が急務であり、そのためには会員相互の協力はもちろんありますが、近隣医師会、県医師会や8ヶ町村との連携協力体制の充実確立が大きな課題であると考えている。

そのような現実のなかで医師会関係の情報量の増大、事務処理などの仕事量が複雑化しつつあり、効率的な事務処理機能が必須の状態であります。このような問題を解決するために、医師会執行部に総務係を新設したいと考え、事務処理の効率向上を目指したいと考えている。また我が医師会は8ヶ町村に及ぶ広大な地域にあり、地域医療の充実のため医師会会員全員の英知を結集し、医師会活動の活発化を目指したいと考えている。

3) 資格確認 会員総数67名中 出席29名 委任状34名 で総会成立

4) 宮杜亨前岩手郡医師会長に記念品の贈呈

5) 議事（議長の早藤先生が御欠席のため高橋司副議長が議長に選出された。）

1. 昭和62年度一般会計決算書の承認について

2. 昭和62年度祝祭日当番医会計決算書の承認について

3. 昭和62年度特別会計決算書の承認について

4. 会計監査報告（佐藤尚孝先生による）

1. 2. 3. の議案については会計担当より説明があり、全会一致で承認された。4. の会計監査報告についても異議なく承認された。

5. その他

全会計予算のなかで会長交際費の必要性について論議され、月額10万円を認めることで承認された。さらに事務局の機能強化のため、パートで事務職員を委嘱したい旨会長より提言があり、会長一任とすることで承認された。

6) 報告

1. 社会保険医療担当者指導方針打ち合せについて（高橋牧之介会長）

今年度は指導監査は岩手郡内では行われない等の報告があった。

2. 第一回学校医部会について（高橋孝理事）

精神衛生面、早期成人病、思春期の問題点にとりくみ、64年1月の学校医大会には郡からも演題提出をしたいとの報告があった。

3. 都市医師会福祉関係担当会議について（坂井博毅理事）

グループ保険その他の現状報告があった。

4. 第一回産業医部会幹事会について（西島康之理事）

郡内の部会設立と勉強会の開催およびmental healthへ積極的に取り組みたいとの報告があった。

5. 第一回生涯教育委員会について（上田靖彦副会長）

今年度も自己申告制度により生涯教育の実をあげたい等の報告があった。今年度の県民健康講座は岩手町で行うことですすめることになったとの報告があった。

7. 勤務医部会より（佐藤郁郎副会長）
県医師会勤務医部会長は小山田先生より高次救急センターの谷口先生へと交替になったなどの報告があった。

8. 広報委員会より（鳴信理事）
各町村に広報委員を委嘱し広報活動の活発化を計りたいとの報告があった。

9. 新入会会員紹介（高橋牧之介会長）
退会の宮沢、戸田先生および新入会の小原準之輔先生、鶴谷隆司先生、篠村五雅先生の紹介がなされ会員の承認を得た。

[特別講演]

その1. 座長 佐藤郁郎副会長
「医師会を考える」岩手県医師会常任理事 横井末男先生

医師会活動とは何であろうかとの問いを武見太郎会長時代からの様々なエピソードを交えながら現状の厳しさ及び医師会活動の使命について述べ、社会医学への対応やmassにたいする考え方や老齢化社会の問題点を併せて専門性への驕りをすべて取り組むべきとの内容の豊かな講演であった。

謝辞：高橋牧之介会長
その2. 座長 上田靖彦副会長
「脳死と個体死」岩手医大 医学部法医学教授 桂秀策 先生

最近話題になっている脳死の問題点を個体死との対比を行い、脳死の場合の死亡時刻および個体死の場合のそれを比較し、現在日本医師会が抱えている問題を指摘し、脳死の診断が家族の承諾をえて行うという、少なくとも医療の基本となる死の判定について問題提起をされ、これも有意義な講演であった。

謝辞：元郡医師会長・上野精三先生
懇親会は引きつき芙蓉の間でおこなわれ、家族の参加をあわせ33名の出席で盛会のうちに総会を終了することができた。

岩手郡医師会役員会

1988・5・21 17:00 於ホテル東日本

出席者 高橋(敬)、佐藤(鶴)、上田、早藤、高橋(孝)

坂井、西島、篠村、八角、嶋、佐渡、及川、

開会 会長挨拶

前回の役員会にて医政の問題について触れましたが、今回も若干であるが大切な問題をお伝えしたい。最近盛んに新聞報道を賑わしている医師優遇税制の問題があります。社会保険報酬事業税非課税措置は優遇策ではなくこのことを地方でそれぞれの自治体関係者に理解していくだくようにとの依頼が日医よりあった。日医と自民党はすでに昭和59年9月に保険の統合一本化について合意がなされ国民に最良の医療制度を提供するため“5年後の保険一本化の覚え書き”がかわされた。当時武見太郎日医会長からの念願でもあったこの保険一本化は来年で5年目をむかえ具体的な作業が必要な段階となり、日医で検討中のことである。保険の統合はそれを実行する段階での理念と現状分析そして統合の必要性を三本柱として基本構想をまとめ、社会資金の流れ、社会的連帯感、医療発展の歴史 professional freedom の確立のなかで公平と平等感のある保険制度の確率を目指したいようである。今後の動向としてはさまざまな社会経済状況・環境の変化のなかで、現行老人保健法との関連から高齢保険、国保の再編という観点から地域保険そして共済、政府管掌保険を中心に職域保険の3本立ての構想だが、厚生省の答申には言葉に難点がある。今後一本化への方向で論議が盛んになるであろう。

議題

1) 昭和62年度岩手郡医師会一般会計決算について

昭和62年度岩手郡医師会休祭日当番医決算について

昭和62年度岩手郡医師会特別会計決算につ

いて

昨日(5月20日)監事および前医師会長、現医師会長により昭和62年度決算の監査が施行され決算が確定したとの報告があった。

2) 昭和63年度社会保険医療担当者指導方針打ち合せについて

先日、県医師会会长・副会長・保険担当常任理事と県生活福祉部の担当者との打ち合せがあり指導方針の確認を行った。原則として地区別輪番制で過去に個別指導を実施していない機関、再指導の必要な機関、著しく保険点数の高いか低い医療機関、返戻の多い機関を選ぶこととするが、今年度は岩手郡については監査指導は入らない事になっている旨、高橋会長より報告があつた。

3) 第一回学校医部会監事会について

高橋(孝)理事より5月7日に開催された会議の概要が報告された。部会長、副部会長選出の後、昭和62年度事業報告がなされ、さらに、昭和64年1月22日の学校医大会への演題提出の要請を岩手郡医師会が受けているとのことであった。さらに今後の学校医の検診活動は医師会主導型で行うべきであり、そのため、まずその検診の目的・計画・方法等について教育委員会と予め打ち合せが必要であり、その結果については医師会が検討を加える事とし、また事後指導がうまく行われているかを確認する必要があると報告した。次に養護教員の医師会会議への参加促進援助、心臓検診の必要性と検診の援助金が900円(一人)であること、側わん症、近視、耳鼻科検診時の使用機器についての推薦がなされた。

4) 郡市医師会福祉関係担当者会議について

坂井理事より5月18日の会議の報告がなされた。開催にあたり三浦県医師会長は医師会活動を活発にすることが医師会の発言力を高めることになるが、医療計画の実践のなかで多くの問題をかかえ福祉活動の重要性が強調された。また医療経済の安定化が重要であり、地域から信頼さ

れる医師会員になることが基本であることを強調し、日医のプラスになるような活動をしたい旨の挨拶があった。県医師会では財源の問題がありゴルフ、野球、芸術祭以外は同好会形式にしたい。一方医療訴訟は依然として多く、日医の損害保険、グループ保険の説明・案内があった。

5) 理事の職務分担について

職務分担については高橋会長より基本方針の説明がなされ、一般会員より部会に入会いただき年に数回の会合をし、若い会員の人づくりと、人物発掘が大切であると考え、ルールをつくる定款検討委員会が必要であり、さらに都市医師会裁定委員会、総務会を作ることとこれも役員の承認を得た。

次に詳細は省略するが広報、医事紛争等担当委員より現状報告があった。

6) 岩手郡医師会総会開催について

6月11日八幡平ハイツにて（午後4：00）開催

予定であることが報告され主として決算総会であることの説明があり、特別講演は2名におねがいし、医政と学術面での講師は会長一任となつた。

7) 第40回岩手県医師会親睦野球大会について
7月24日大船渡で開催され郡からは13名の参加予定である。

8) 会員の入退会

会長より滝沢中央病院より2名の入会希望があり、これは全員一致で承認された。

またひとり退会希望がありそれも認められた、

9) その他

6月26日県医師会の総会があるが功労者の推薦は今回該当者無しとした。色々な団体からの寄付依頼が多いがなるべく資金的に負担を減らすこととした。広報に各担当者以外の連絡係を各町村に一名ずつ依頼する事とした。

※※岩手郡医師会理事会記録※※

時：1988・7・22(金)午後6：30

所：岩手県医師会館第2会議室

出席者：高橋徹、佐藤徹、上田、西島、坂井、
瓜田、八角、高橋(男)、嶋、及川、各理事

1) 会長挨拶

現在の最大の課題は医師優遇税にたいする方策である。事業税への非課税が実行されるならば、実力行使も辞さない考えである。その一つとしては、学校医としての活動、ヘルス事業、予防接種その他地方自治体の公衆衛生活動を一般診療業務に位置づけることを考えている。学校保健の検診を初診料のみの料金設定しただけで、年間約4000億円ぐらいの金額増になるといいます。事業税非課税の方が有利なはずだが？流れは不公平税制の是正強化が先行しているようで

す。speedyに会を進めたいと思いますので宜しくお願いします。

2) 課題

(1) 第197回岩手県医師会臨時代議員会について

6月18日(土)午後2：30より岩手県医師会館で開催す。

三浦会長挨拶後、各担当常任理事より部門別事業報告あり。次いで議事に入り第1号議案昭和62年度岩手県医師会一般会計歳入歳出決算、第1グループ保険・第2グループ保険の歳入歳出決算、医療従業員退職金積立事業・小規模企業共済特別会計歳入歳出決算、一般会計歳入歳出第1次補正予算に關し、功労金支給に関する第7号議案まで、慎重に審議され可

決された。代議員会後、続いて岩医厚生株式会社、第11期定時株主総会と岩手県医師連盟代表者会議がひらかれた。

(2) 三都市（盛岡市・紫波・岩手）医師会懇談会について

6月22日午後6:30よりホテル東日本にて、主として、救急医療（災害時）体制の進行状況および各種検診事業の現状について意見交換をおこなった。（及川）

(3) 第40回岩手県医師会総会・第80回岩手医学会（春季）総会

6月26日(日)開催。岩手郡医師会より11名出席す。

昭和62年度庶務並びに事業報告・昭和61年度歳入歳出決算の承認そして会員表彰のあと、特別講演として尼崎市医師会副会長西村亮一先生の“病診連携の進め方”と岩手医大第2生理学講座安田直毅教授より“C aとPのホメオスタージス”的講演があった。続いて“感染症をめぐる諸問題”的講演が厚生省保健医療局感染

症対策室長伊藤雅治先生によっておこなわれた。

(4) 第1回健康教育委員会について

7月2日に開催された健康教育講座は今年も実施することとなった。またテレビ放送のアンケートをとり、放送時間や放送内容への吟味が課題とされた。（八角）

(5) 県単医療費助成事業について

本事業の所得制限の導入の可否についてのこれまでの経過を説明し、県医師会長と中村知事との会見の状況が報告された。

（会長）

(6) 国保の再診請求について

国保の査定と社保の査定が異なっていることの問題点等が報告された。

(7) 自民党岩手県医療会支部の党员獲得について

県医師会・医師連盟からの要請に基づき各理事・役員の分担協力が検討され、57名の獲得を互いに了承した。

※乳児・妊産婦及び重度心身障害者医療費助成事業の一部改正について※

昭和48年10月より実施しております、標記事業の給付対象者について、昭和63年8月1日より、県は所得による制限を導入して実施することになりましたが、市町村においては、昭和63年度中は現行制度のまま事業を行うところもあります。下記“医療費請求事務の取扱いについて”的とおり事務取扱いにご配慮ねがいます。

乳児、妊産婦及び重度心身障害者医療費給付事業市町村単独実施に伴う医療費請求事務の取扱いについて

1、医療費受給者証の表面上部中央余白に乳6
妊7 重8 と赤色で表示いたします。

2、国保分

(1) 診療（調剤）報酬明細書の右上部余白に、乳6 妊7 重8 と赤色で表示願います。

(2) 診療（調剤）報酬請求書への記入は、再掲欄の「県単 乳・妊・重（81）」

に市町村単独分を含めて記入願います。

(3) 明細書等の編綴は、県単 乳・妊・重の次に市町村単独分 乳6 妊7 重8 の順に綴るよう願います。

3、被用者保険分

(1) 市町村単独分の医療費請求書には右上部余白に、乳6 妊7 重8 と赤色で表示願います。

(2) 医療費請求書を県単分と市町村単独分に分けて、乳児等医療費請求書送付書をそれぞれ添付願います。

乳児見本 市単独分

乳 姪 産 婦		児 医療費受給者証	
受給者番号	盛63 一		
受 給 者 者 姓 名	住所		
対象者 姓 名	氏名		
生年月日	昭和 年 月 日	性別	男・女
有効期間	昭和 年 月 日から(出産予定年月年)	末日まで	
発行年月日	昭和 年 月 日		

県単分

乳 姪 産 婦		児 医療費受給者証	
受 給 者 者 姓 名	受給者番号 岩盛63一		
受 給 者 者 姓 名	住所		
対象者 姓 名	氏名		
生年月日	昭和 年 月 日	性別	男・女
有効期間	昭和 年 月 日から(出産予定年月年)	末日まで	
発行年月日	昭和 年 月 日		

乳児、妊娠婦に係る周産期対策について

自民党岩手県連から要請もあり、これまで種々検討して参った結果、次のような結論に達したので、御理解のうえ、格段の御協力を願いたい。

記

乳児医療機関委託健康審査の拡充・高齢初妊婦の調査研究

◎乳児

(1) 現状

生後一年以内の乳児全員に対し、2回受診券を交付し検診を実施している

(国1/3、県2/3)

(2) 拡充案

生後1カ月を経過した乳児に、県単で受診券を1枚追加交付する。

(3) 理由

乳児の異常、疾病を早期に発見し、早期に適切な措置を講ずることが可能となり、乳児の健康の保持、増進及び乳児死亡率の更なる低減が期待される。

◎妊娠婦

(1) 現状

妊娠届をした妊娠全員に対し、2回受診券を交付し健診を実施している。

(国1/3、県2/3)

(2) 高齢初妊婦の調査研究

30才以上の初妊婦に県単で受診券1枚を追加交付し、その健診結果に基づき調査研究する。(健診期間は2年間とする)

(3) 理由

高齢初妊婦は一般的に流産、早産、妊娠中毒症等を起こす割合が高いこと。また、難産の傾向やダウン症候群児を出産する割合も非常に高いことから高齢初妊婦の母体の保護と正常分娩の確保を図る。また、この高齢初妊婦の調査研究を県医師会に委託し、本県における高齢初妊婦の保護と正常分娩の確保の参考にしようとするものである。

実施期間：昭和63年10月1日から

二郡市医師会代表者懇談会記録

時：昭和63年6月22日（水曜日）午後6時30分

所：ホテル東日本

出席者：

盛岡市医師会 石川育成 久保木高 小笠原
寿 真瀬静 上原伸一 小林
高

紫波郡医師会 小早川源郎 角田敞 吉田昭
田村健二 堀江寛 斎藤裕
川村隆夫

岩手郡医師会 高橋牧之介 佐藤郁郎 上田
靖彦 高橋孝 西島康之 及
川忠人

1) 高橋会長挨拶

本日はご多忙中この懇談会にご参加いただき有難うございました。この会はこれまで盛岡医師会のお世話で過去5～6回開催されてまいりましたが、今回当医師会がお世話させていただくことになりました。さて今年3月出来ました盛岡医療圏の位置付けを示した県医療計画はハードのみでまだソフト面での実動はなく、地域格差の是正は簡単には出来ない状況であります。このようななかで救急医療災害対策については既にいま一步のところまで進展し、各町村との協定が今年中に調印される予定であります。一方検診面では当医師会は盛岡に全く依存せざるをえない状態であり、検診事業についても岩手郡全体での統一が必要であると考えていますが、もう少し調整が必要と思います。今後この会が盛岡医療圏の集まりとして、医師会員相互の交流とnew mediaの利用により益々発展することを期待するしたいです。今日はゆっくりご歓談頂ければ幸いです。

2) 話題

1. 救急災害医療の現況（及川理事）

会長より報告がありましたが、救急対策要綱はすでに一昨年郡医師会総会で承認され、班編成もできて、各町村との協定が残されており、つめの段階で

あり今後とも相互の連携を大切にしたいと述べた。

2. 成人病検診（佐藤郁郎副会長）

葛巻町を中心に成人病検診の問題点を上げ、検診率の向上及び対癌協会、町保健センターとの関連について述べた。

3. 成人病検診（上田副会長）

西根町の検診事業について予防医学協会、対癌協会、日赤婦人科検診結核検診等に関わる問題点を指摘し、とくにX線による診断の限界がある事を強調した。

4. 学校検診（高橋孝理事）

耳鼻科、眼科は盛岡市医師会に依存せざるをえない状態であり、岩手郡学校医部会が昨年結成され、今後の統一事業などの成果が期待される。

3) その他

1. 盛岡市医師会長挨拶

盛岡市医師会は数により代議員会で事にあたっているとの話があるがその様な事実はない。災害対策要綱についてはすでに盛岡市医師会との協定が成立し、県医師会へ問題提起を行っていて、桜井非常任理事を中心に15郡市医師会の足並みがそろう基礎となっている。

盛岡の検診事業はすべて個別検診であり円滑におこなわれている。

2. 紫波郡医師会長挨拶

昨今の医療は大病院志向型になりつつあり、小規模医療機関の将来に不安が残る。今後医療秩序の尊重が大切であり、調和のとれた医療保健が今後の医師会の課題と考えている。

4) 懇親会

川村日赤病院長の乾杯でわきあいあいの会となった。

昭和63年度第1回学校医部会幹事会報告

零石町 高 橋 孝

関連機関と検討する。

- 2) 検査機関よりの結果について、医師会学校医が目を通して検討して、事後指導を行なう。

学校医部会の詳細については後日【いわて医報】に掲載されると思いますので紙面の都合もあり2, 3述べてみます。

同部会の63年度の事業に、第6回岩手県学校保健、学校医大会の開催が昭和64年1月22日に決定しました。岩手郡では、1, 2年この大会に演題を出しておりません。折角の発表の場でもあり、事業の大きなテーマでもあります小児成人病対策について発表するに価値あるユニークな、地域にとけこんだ学校保健活動をなさつておいでの方もいらっしゃると思いますので、本年度は是非発表して頂きたいものと念じております。

次に、各種検診活動の推進ですが、医師会主導型の学校保健活動をと、最近言われます。又、会によっては検診に必要な費用も負担しているやにも聞きますので、この点も含めて医師会主導型の検診の理想とするところをお聞きしました。

それによりますと、

- 1) 医師会、学校医が各種の検診の計画、目的、方針等を教育委員会、又各種

以上の事は必ずやってほしいとの事でした。当医師会は広い地域でもあり、8ヶ町村もあります。1988年、5月号【いわて医報】にも私が投稿掲載しましたが、各町村における学童の検診項目、学年も区別であります。これは、各町村の考え方、経済の問題もありますが、昨年設立された岩手郡学校保健会の場においても検討されるべきものだと思います。

最後になりましたが、小1、中1に対する心電図検査の一部として地方交付税、一人900円が支給されている事を考えあわせて、通常行なわれている学童に対する検査が行なわれていない学校があれば、学校医の不勉強が指摘されるだろう。

【だろう】【だろう】と言う言葉が耳に残っております。

第2回岩手県医師会理事会

6月7日（火）岩手県医師会館で開催す。

◆報告

- (1) 昭和63年度社会保険医療担当者指導方針打ち合せについて
- (2) 第1回学校医部会について
- (3) 第1回都市医師会福祉担当理事協議会について
- (4) 第1回監事会について
- (5) 第1回病院委員会について
- (6) 第1回生涯教育委員会について

上記事項は6月11日（土）岩手郡医師会通常総会にて各担当理事より報告

◆協議

6月18日（土）第107回岩手県医師会臨時代議員会の提出議題の承認を求めるものを主に、に、各事項を協議。

次いで議事に入り、第1号議案昭和62年度一般会計決算が賛成多数で可決、第2—7号議案も原案通り可決された。詳細は岩手県医師会臨時代議員会議録に掲載されます。

隨 想

出 会 い

玉山村 秋 浜 晃

それは確か盛岡中学二年生（昭和18年）の二学期の午後であった。次の国語の授業が始まると少し間のある時であった。級友の数人が真新しい教科書を開きながら、野村胡堂や石川啄木論、あるいは芸術論、唯物論、社会主義、無政府主義などについて、盛んに口角泡を飛ばして論じていた。のぞきこむと著名な幾人かの歌人にまじって啄木の短歌が教科書に載っていた。上欄には啄木の生存期間、出身地、歌集名等略歴が記されてあってそして啄木独特の三行形式の短歌の下に、歌碑のある鶴飼の風景写真まで掲載されているではないか。あ！ これは渋民だ。この歌碑の辺りは良く知っているぞ得意気に思いながら、その句を口ずさんだら、級友が怪訝な顔をしながら、お前は二戸ではないか。何故渋民に關係があるかと尋ねた。本籍地は渋民であると話したら合点してくれた。

父は大正11年に全国でも、古さ、大きさ共に1, 2を競った歌碑が完成したその直後二戸に転勤した。そこで私も中学に入学するまでずっと二戸で過ごし、毎夏毎冬の休暇の度毎に、必ず渋民に帰り、そして歌碑の辺りで遊んだ。

小学校の頃は第二次世界大戦の直前で、『少年俱楽部』『見えない飛行機』が大好きで詩とか短歌には全く無縁であった。今にして思えば、

父の書棚にはアララギ、ホトトギスの月刊誌と共に啄木全集とか啄木研究とか啄木に関する本が多くあった。生活派の短歌という言葉を何故か10才頃に耳にした記憶がある。父は啄木の教え子で直接指導を受けたにもかかわらず、私には啄木について多くを語らず、話したがらなかつた。長ずるにつれて啄木は禁句になってしまった。そこで子供心にも何かあるなとうすうす感づいていたが日1日と戦争への速度が増すにつれ、啄木の事は忘却してしまっていた。

中学二年生になった。右隣りの席の級友が哲学、唯物論、貧乏物語を読んでいた。そして啄木について、彼は社会主義者であり無政府主義者だと小声で教えてくれた。そして大声を出すな、大声で話すと警察に引っぱられるとおどされた。これで父が啄木について話したがらなかつた理由も少しづつ解けて来た。啄木は身近かな人間だと思っていたのだが、そんなこんなで、くわしいことを知らないまま忘却していた。しかし、中学校の教科書で写真を見たときに、やはり、啄木は、私の記憶の中にあったと確認した。

振り返ってみると私と啄木との最初の出会いは、幼い頃の我が家家の書棚であり、二度目の出会いが、あの頃の盛岡中学にあったと思われてならない。

産業保健研修会に参加して 葛巻町 西島 康之

本年度の研修会は、産業医活動促進対策事業の一環として、5月28日(土)午後3時より、都南村のいんべクリーニング南工場で開催され、約50名が参加した。当郡医師会からは、私と滝沢中央病院の高橋先生が加わった。当日は、研修に先立ち、いんべ工場専務から工場の概況説明をうけ、ひき続いて一般クリーニング工場と化学雑巾（ダスキンモップ及びダスキンマット）

の再生工場を案内して頂いた。近代化されたクリーニング工場では、衣類等の洗濯は、第二種有機溶剤のテトラクロールエチレン及び石油系溶剤が使用されており最初は溶剤ドライ用ソープが注入され洗濯、脱液、乾燥と全自動で作業が完了するようになっており、使用済の溶剤は、濾過蒸留して再使用される仕組みである。また有機溶剤回収機及び同処理機に送られ自動的に

排気ダクト等が完備しており、有機溶剤に作業員が暴露される危険性が全くない状態である。そして、衣類等からの感染防止には消毒器による熱処理や、次亜塩素酸ナトリウムによる殺菌が行われている。化学雑巾の再生工場では、すべてが温水と溶剤で処理されて有機溶剤は全く使用されていないのは、意外であった。それは、回収されたモップには油性の吸着剤が残っており、しかも大量の塵埃や泥が付着しているため有機溶剤を使用すると、「しみ」が残ってしまうので水性の溶剤による洗濯が行われているという理由がらであった。この再生工場から出

る廃液は、搅拌、分散、沈澱処理され、水と泥土に分けられ、水は放流し泥土は委託業者によつて搬出されていた。（その量は1日3トン）

また、この工場は身障者雇用モデル事業の指定を受けており、数10名の身障者が働いていた。

汚いものを扱う工場であるが非常に清潔な工場であるのが目についた。しかし、単調な作業であり働く人にとっては、大変という印象もうけた。見学終了後、同工場の会議室で質疑が行われ大変有意義な研修会であり、勉強になった。

この研修会は毎年行われていますので、多くの会員参加を頂きたい。

伏兵 及川大活躍

~~~~~県医師会野球大会練習試合~~~~~

昨夜来の雨も止んだかにみえたが、午後3時頃より、郡内各地から、7月9日（土）滝沢村大釜の平石川河川敷球場に集まった各選手達は、こんな天候で今にも降り出しそうな上空を見上げながらグランドに到着したのであった。

それもそのはず、聞くところによると朝7時30分頃から会長宅に「今日は野球出来るのですか？」との問い合わせもあったとのこと。案の定、会場に到着してみると、ダイアモンド内のそれぞれのベース付近は水たまりがあり、やはり使用不可能で三塁後方のやや水を含んだ芝生上を使っての対戦となつた。

本日の対戦相手は、例年我々のチームを鍛えてくれていた盛岡市内薬卸し連合軍ではなくて、松尾村の東八幡平病院チームである。

朝野球チームもあり、若手とベテランの2チームがあり、その選抜軍の強豪チームという前ぶ

れであった。理学療法士、事務職員、厨房職員など年齢構成は我がチームに比べ圧倒的に若いので、我々も年2回（この練習試合と県医師会大会）の野球試合でもあり大いに負けじとハッスルしたのであったが、相手の3、4番の若くて迫力のある打力、力感あふれるプレーには脱帽せざるを得なかった。例年、年齢層の高齢化に加えて走力の衰えは遺憾ともし難く、我がチームで特に目立った選手は、今回相手をつとめてくれた東八幡平病院院長の及川先生（今回初登場）の左中間を破る二塁打は圧感であり、今年の県医師会大会（7月24日大船渡市で開催）での伏兵としての活躍が大いに楽しみである。また彼は大船渡の出身でもあり、特に地元に帰つてのハッスルぶりは見物である。

当日の成績及び、打順、ポジションは次の通り。

（鳴 信記）

|        |     |        |     |
|--------|-----|--------|-----|
| 1, (投) | 岡 田 | 5, (三) | 嶋   |
| 2, (遊) | 篠村兄 | 6, (捕) | 上 原 |
| 3, (一) | 佐藤郁 | 7, (左) | 及 川 |
| (H, 一) | 高橋牧 | 8, (中) | 篠村弟 |
| 4, (二) | 西 島 | 9, (右) | 佐々木 |
|        |     | (H, 二) | 瓜 田 |

|         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 計 |
|---------|---|---|---|---|---|---|
| 郡 医 師 会 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 東八幡平病院  | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 5 |

# 三回戦まで進出

——第40回県医師会親睦野球大会 於 大船渡市——

例年真夏の最も暑い八月のお盆過ぎに行われていた県医師会親睦野球大会も回を重ねること第40回となり、今年は担当医師会（気仙医師会）の配慮により7月中に行われることになった。この時期例年ですと殆んどカンカン照りの海水浴客でごった返す気仙地方でもあり、再三に亘って担当医師会より当日会場の大船渡市入りする先生には早目に住田町を通過するようにとの伝達事項があった。ところが今年は30℃を越すという程の真夏日には程遠く、海水浴客は少ないせいもあって当日朝早く出発した人にとって道路の混み具合いも殆んどなく拍子抜けの感がした。

前日より地元入りして大いに翌日への英気を養ったわが岩手郡の選手諸兄は、漁港大船渡のお

く1回戦

◎メンバー（対東磐井郡）

|           |       |     |       |
|-----------|-------|-----|-------|
| 1 (三) 岡 田 | 5 (遊) | 篠 村 | ◎二塁打  |
| 2 (二) 西 島 | 6 (中) | 遠 藤 | 篠村、上原 |
| 走 二 佐 藤   | 7 (右) | 佐々木 | 及川    |
| 3 (投) 土 谷 | 8 (一) | 上 原 |       |
| 4 (捕) 鳴   | 9 (左) | 及 川 |       |

さて、われわれの1回戦の会場はメイン球場からさかり川を隔てて程近くにある市民グランドの隣接地の堀川グランで行われた。

1回戦の相手は、昨年敗者戦でも苦杯を喫している東磐井郡医師会チームでもあり、初戦ということもあってジャンケンで勝ったら、初めから好球必打で打って行こうという申し合せ通り、初回より特に下位打線の上原、及川両先生の二塁打を含め、篠村先生の好打によって一気に5点を相手ベテラン本多投手に浴せて勝負を

いいしい海の幸を十分に堪能して明日の試合に備えた。

開会式の行われたメイン球場は、社会人野球でお馴染みの小野田セメント球場であり、地元大船渡中学校の吹奏楽部の生徒の演奏する中、各都市医師会チーム（20チーム）が入場し、地元大船渡市長の祝辞をいただき、気仙医師会を代表して大内義也先生が力強く選手宣誓を行なったのち、永年選手表彰では40回連続出場の先生が4名もおられたことは非常に名誉なことと思われます。当医師会からも瓜田明義先生が10年選手として表彰された。例年この永年選手表彰は各1人1人が会長より手渡されていたため開会式が非常に時間がかかったが、今回は簡略化したため比較的短時間で開会式が終了した。

| チーム  | 回 | 1 | 2 | 3 | 4 | 計 |
|------|---|---|---|---|---|---|
|      |   | 5 | 0 | 0 | 0 |   |
| 岩手郡  |   | 5 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 東磐井郡 |   | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

決めた。この試合中西島先生は一塁へ走るとき足に痛みを訴え、以後の試合に大事をとったことは誠に残念であった。また監督の奇襲作戦（速い球を投げ、目先を変える？）ともいえる試合開始直前のメンバー発表で、バッテリーを若手の土谷一鳴として試合にのぞんだ。これがまんまと図に当った（？）感じであった。初回の5点だけではあったが、以後両者ともゆづらず膠着状態が続いて時間切れゲームセット。

## &lt;2回戦&gt;

## ◎メンバー（対釜石戦）

1 (三) 岡田 6 (二) 高橋 ◆二塁打  
 2 (中) 遠藤 7 (右) 佐々木 鳴  
 3 (投) 土谷 8 (一) 上原  
 4 (捕) 鳴 9 (左) 及川  
 5 (遊) 篠村

| チーム | 回 | 1 | 2 | 3 | 4 | 計 |
|-----|---|---|---|---|---|---|
| 岩手郡 |   | 0 | 2 | 1 | 4 | 7 |
| 釜石  |   | 1 | 1 | 0 | 2 | 4 |

続いて同一球場での2回戦は釜石医師会チームであり、このチームも若手主体の強豪で過去5回優勝経験もあり、県立病院、市民病院の若手及び若手の開業医（40才代前半）の先生方でもあり、1番から9番バッターまで息の抜けない打者が多かったが、相手チームはわが軍の期待の即戦力ピッチャー土谷投手の速球に連続ヒットが出ないため、大量得点とはならず、1回2回の1点づつ、4回には2点を返すのが精一杯でそのまま試合終了となった。

## &lt;3回戦&gt;

| チーム | 回 | 1 | 2 | 3 | 4 | 計 |
|-----|---|---|---|---|---|---|
| 岩手郡 |   | 1 | 0 | 3 | 0 | 4 |
| 盛岡A |   | 3 | 1 | 2 | X | 6 |

## ◎メンバー（盛岡A）

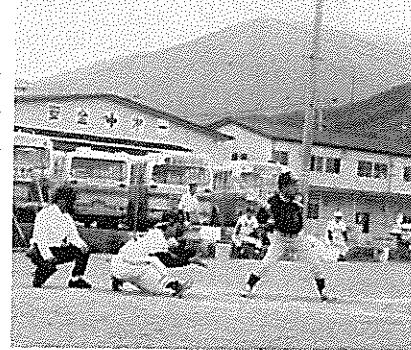
1 (三) 岡田 6 (右) 佐々木 ◆二塁打  
 2 (中) 遠藤 7 (一) 上原 篠村  
 3 (投) 土谷 8 (二) 佐藤  
 4 (捕) 鳴 打二 高橋  
 5 (遊) 篠村 9 (左) 及川

続いて行われた第3回戦は、盛岡Aチームとの対戦であった。わが軍は同会場での連戦ということもあって、過去1, 2戦と打線の大幅な変更はなく、各選手とも予想外の3試合目と日々に言いながら、これに勝てばメイン球場の準決勝進出であり、大いに頑張りましょうとげまし合ったのだが……やはり相手は一枚上手といった感じであり、盛岡市内の病院選抜軍（市立病院、医大高次救急センターなど）で、



対釜石戦で右前ヒットの佐々木先生

わが軍は打順を2番と6番を入れかえ、上位打線で打ち込む作戦であり、第1回戦でまだ目がボールに馴染まなかった4番鳴が、この試合左中間にタイムリー2点二塁打を放って大いに気を吐いた。また守備面でも及川左翼手のあわやレフトオーバーの大飛球の好捕があったり、遠藤中堅手の走りながらの好捕など、バックも大いに土谷投手を助け、それが自分の持場を十分理解し、大いに打線も爆発した試合であった。



対盛岡A戦で自軍を鼓舞する高橋会長

どの選手もうまそうに見えるから不思議である。また土谷投手は、1番バッターから元同僚（高次救急センター）ということもあり投げにくそうであったのは確かなようだ。また相手チームの先発投手は、40年選手表彰を受けたばかりの76才高松投手であった。1回1番から4番まで投げ降板してしまった。

この試合時間切れも近づいて同点としたところでその裏2点をとられ惜しくも敗れた。

試合終了後懇親会場として用意された大船渡グランドホテルには当医師会より約7名が参加し、一風呂浴びたあと、ホタテ、サンマ、刺身など魚貝類をいただき、アトラクションとして用意された大船渡農高生の『怒濤太鼓』を聞きながら、優勝チームがどこかわからないままそれれ帰宅の途についた。

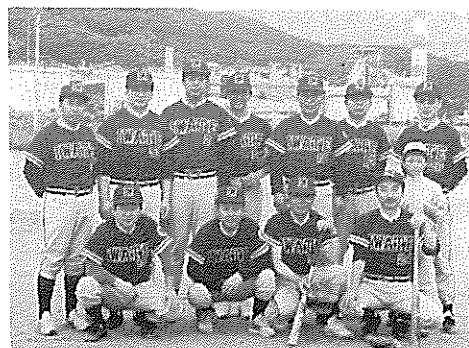
総体的には岩手県高校野球決勝戦の両チームと同様に、われわれのチームは伸び伸び野球と一戦一戦力をつけて三戦まで戦うことができたとの印象が強いように思う。

第1回戦では下位打線の連打により、また。2回戦では好守備にて少ない失点に抑え、徐々に打撃面においてもホールがよく見えるようになって、各選手とも頑張り、第3回戦では連戦の疲れもあってか相手に振り回されて、よく走られての敗戦かと思われます。年に数える程し

か試合をこなしていないわれわれにとって、3連戦、4連戦は過酷とも思われます。翌日は腕から下腿の筋肉の過緊張で階段の上り下りにも苦痛を感じる年代になったことは確かなようだ。次回もまた今回の幾多の経験を有効に生かし、大いに頑張って活躍して下さることを祈念します。このたび活躍された選手諸兄の皆様本当にお疲れ様でした

順番からいえば次回は水沢市、昭和65年二戸市での開催、その次の昭和66年（第43回）大会は当医師会の担当になりそうです。徐々に準備作業にとりかかるなければならないことでしょう。皆様の御協力を切に希望します。

（鳴 信記）



岩手郡選手一同

## 新入会員自己紹介

◎氏 名：篠村 五雅 先生（篠村泌尿器科医院）

年 令：37才

出身校：岩手医科大学

診療科目：泌尿器科

出身地：岩手県岩手郡雫石町

趣 味：魚釣り

開業時期：昭和63年 6月20日

〔ひとこと〕

昭和63年5月、県立宮古病院を退職し、雫石に開業しました。よろしくお願いします。



## 退 会

○ 6月30日 谷藤幸夫 沢沢中央病院

○ 6月30日 多田隆士 八角病院

○ 6月30日 龜井亞理 八角病院

## 編集後記

このところの暑さで冷害の心配も無くなり、なんなく安心したような今日この頃です。漸く岩手郡医報23号発刊の運びと成りました。編集を進めて参りますとお伝えしなければならない会務報告や議事録が大変多く、今更ながら会長の仕事の量の多さに驚きました。

広報担当理事の鳴先生はさすが、あらゆる会

合や大会に出席され、大変多くの写真を提供して戴きました。有難う御座居ました。皆さんの御協力により、沢山の原稿が集まりました。ページ数がオーバーしたために、2～3の先生方の原稿を次号に回す事に成りました。全て私の責任です。謹んでお詫び申し上げます。

（H. S記）